

第4回足立区住宅政策審議会企画部会 議事要旨

- 1 日 時 平成28年12月15日（木） 午前10時00分から午前12時10分まで
- 2 場 所 足立区役所 作業室（南館4階）
- 3 出席者 足立区住宅政策審議会企画部会委員（4名）
大村謙二郎（副部会長）、明石達生（委員）、遠藤薫（部会長）、森田和彦（委員）
事務局（7名）
建築室長、住宅課長、住宅計画係長、住宅計画係主任、開発指導係（オブザーバー）、ランドブレイン(株)
- 4 議事等 （1）第24回足立区住宅政策審議会 議事抄録について
（2）（仮称）足立区住生活マスタープランたたき台について
- 5 資 料 【部会資料17】 第24回足立区住宅政策審議会 議事抄録
【部会資料18】 （仮称）足立区住生活マスタープラン たたき台
【当日配布資料】 足立区 住宅施策のあり方・方向性

(部会資料 17 第 24 回足立区住宅政策審議会
議事抄録について説明)

○遠藤委員 8 番の公営住宅を増やさないと言う意見について、増やすよりは少しでも減らしたいと思うが、どういうふうに戸数が減るのか。

○住宅課長 建替えの際には従前居住者の戸数が確保されればいい。集約建替えを行っていく中で、戸数を少なくするというよりは偏在解消を目指しており、他区に動いていただいてもいい。

○明石委員 東京都の建替えや戸数についての方針はどうなっているのか。

○建築室長 23 区に約 16 万戸ある。この数が適正で増やすとも減らすとも言っていない。その 2 割分の 3 万 1 千戸が足立区にあるので、区としては建て替えの時に他区に移転してほしいが、東京都としては 3 万 1 千戸を確保したいというスタンスになる。都営住宅については、建て替えの時に従前の入居戸数で戸数を決めることになるが、区としては公共施設を入れたいので、その分の戸数を削減する、という形で 1 割ずつ減らしている。区営住宅については、535 戸あり、減らしたいがそのままキープになると思う。都営住宅は偏在解消で、他区に建て替えてもらいたい、なかなか受け入れてもらえないのが現状になる。

○森田委員 項番 10 に「安心安全」とあるが、用語としては「安全安心」でよいのか。

○建築室長 「安全安心」の誤りなので修正する。それから 9 番「首都直下型」の型は、区では入れないことにしているので統一する。

(部会資料 18 (仮称) 足立区住生活マスタープラン たたき台について説明)

○遠藤委員 たたき台について肉付けをしていく。項目自体も足りないものがあれば追加する。重点プロジェクト以降は今日初めて示されたので、こうい

うことでいいか議論する。横村委員から指摘いただいた意見は項目出ししているか。

○ランドブレイン 口頭で説明する。今回は協創や「ひと」「くらし」「まち」「行財政」に注目している、言いたいことが前半から分かる方がいい。例えば目次にキーワードを入れるなど、今回注目しているものを分かりやすくする。体裁についても、例えば序章について、小見出しをつける、計画の位置づけの図を大きくする、計画期間を図化する、協創の考え方を序章に盛り込むなどの意見をいただいた。

○遠藤委員 見せ方にとどまらず、このマスタープランでは何を強調したいのか。全体も含めて議論したい。

○明石委員 全体について、地域別の指標は出ないと思うが、今までの議論で、地域別と、駅勢圏内外のことが議論に出たと思う。ところが後半にいくにつれて、まちの構造、駅との関連が少し薄い気がする。地域別については、30 ページに重点プロジェクトの地域別の整備方針というのがあって、これから書きます、ということだが、駅との関係を後ろの方に書き込む章や節があってもいいのではないか。大きな構造として、地域との関係が見えにくい。地域別の足立区一本ではないものをどう扱うか。

○遠藤委員 はじめに、背景や目的のところに、これまでのマスタープランとは違う、意味合いを書いておく必要がある。今はあっさりしすぎていて、ここに地域との構造と、住宅の質、量を関係づけて、住宅マスタープランを考えていくという宣言が必要になる。

○明石委員 住宅マスタープランから、住生活マスタープランになったということを書く必要がある。それから足立区一本だけでなく、地域をきめ細かく見るという姿勢を書けば、後につながると思う。

○遠藤委員 背景と目的をしっかり書き込む。地域との関わりについても、後ほどもう一度議論する。

○建築室長 これまでの住宅マスタープランの評価

は、背景等に入れる必要はあるか。

○大村委員 成果指標など細かい分析はいらないが、今までのマスタープランのどこを継承して、どこを発展して変えていくのかという視点は必要だと思う。なぜ新たな住生活マスタープランを作るのかという意味合いを、メッセージとして出したほうがいい。日本の社会が大きく変わり、少子高齢化だけでなく、住まい方やライフスタイルの多様化を踏まえてやらないといけない。また、「30 年後を見据えた」とあるが、30 年後を見据えられるか。不確実性が高い時代で 30 年後を見据えるのは難しいが、少なくとも 10 年間に限ってはきっちり議論して、行政ができること、民間や区民に期待したいことを書いたほうがいいのではないかと。行政的には、慎重になるとどんどん文章を削ってしまうが、区民向けにメッセージ性を持った計画文章として出した方がいいのではないかと。

○明石委員 これまでの 10 年間があつて、これからの 10 年間で変わっていくことがあれば、そういう形で落ち着くのではないかと。これまでの取り組みとそれがどうだったかというのがあつて、こういう計画になると言った方が、PDCA にも応えられる。

○大村委員 足立区は色々な課題を抱えつつも、ビューティフルウィンドウズ運動や、新線による新たな活力などを踏まえたうえで、新たな住生活マスタープランが求められているということを書く方がいいと思う。

○遠藤委員 次の企画部会までに文章を書き込む。

○大村委員 計画の位置づけについては、他の計画の時点がわかるといい。今回、まちや自転車、歩くこと、医療福祉などについて、住生活の視点から言及する。そういう意味合いで言えば、横並びの計画がいつの時点のもので、今後改定するときにはどういうことをするのか関係がわかるといい。

○建築室長 都市マスタープランと地区環境整備計画は策定中である。

○大村委員 都市マスと連携する要素も相当多い。

重点プロジェクトも都市マスとの関係の中で、5 地域でやられている。

○建築室長 都市マスが明確になると、分野別計画を見直すという動きも出てくる。

○明石委員 都市マスや地区環境整備計画について、今の段階で教えてもらえることはあるか。

○建築室長 基本計画も策定している最中だが、協創につながる事業のあぶり出しをしている。それを受けて、都市マスでは、13 ブロックを廃止して 5 地域とし、駅勢圏で整理する。駅周辺は高度利用、駅から離れたところは高さ制限をして、低層の市街地にするということは聞いている。

○明石委員 地区環境整備計画は、一つ一つの場所について書いていく計画なのか。

○建築室長 昭和 60 年に、72 地区でやっている。それを見直しているが、各地域については将来像が描いてあるので、その整合性を整理する。特に新線ができたので、駅などの拠点整備を明確にしていく。

○遠藤委員 位置づけの図について、住生活マスタープランはすべてと整合を取る。地域保健計画だけでなく、他の計画とも整合を図る。今のようだと、都市マスとだけ整合を計っていればよいように見える。もう少しスペースをとって、策定期間も書き込む。

期間について 30 年後を見据えるのはどうか。

○建築室長 基本計画に、そういう文言が入っている。

○大村委員 30 年後の将来像を打ち出しているのか。人口構造、世帯構造も激変する。

○明石委員 マスタープランの計画期間は 10 年なので、枕詞として一言書いてあるのは邪魔ではないと思う。

○住宅課長 都市マスと揃えて 30 年後を見据えるという文言にしている。

○遠藤委員 枕詞だと理解していた。今から 30 年前に、誰もこんな時代になるとは予想できなかった。

○大村委員 この 2、3 年でも世界的に激変の時代

だと思う。自然災害や地球環境問題も激変する。

○建築室長 基本計画に既にあるので、あえて住生活の中に盛り込まなくても、それを前提に 10 年間取り組む。

○遠藤委員 この 10 年間で大切に表現する。

○大村委員 行政と民間が、それぞれの役割を果たしながら、今後 10 年間、自分たちの将来像を作り上げていくためのプランとして取り組む。

○遠藤委員 公民連携につながるようにする。後に施策が出てくるが、区が直接やるものと、役割分担するものがある。後ろでどの程度明確化するかはともかく、足立区で何をするかを最初に書いておく。年明けにもう一度議論する。

○ランドブレイン 1 章に関して、横村委員から、文章が長いので小見出しをつける、7〜8 ページは見開きにして見やすくするというご指摘をいただいた。

○建築室長 図と文章が連動するようにという指摘だった。

○住宅課長 「ひと」「暮らし」「まち」「行財政」も打ち出した方が分かりやすくなるという意見だった。

○遠藤委員 次回までに、小見出しもつけて、図とのつながりをわかりやすくしてほしい。

○明石委員 「ひと」「暮らし」「まち」「行財政」は 2 章の基本目標につながっていくので、最初から出すとそこに影響してしまう。

○遠藤委員 そのご意見は留保して後で検討する。

○住宅課長 コンパクトにまとめすぎているので、もう少し見やすく、わかりやすくする。

○ランドブレイン 3 章に関しては、横村委員から、首都直下地震を見据え、震災が起こるまでの対策と起こった後の対策が必要という意見をいただいた。東松島の復興まちづくり計画の事例も交え、防災の取り組みが必要ではないかという意見だった。資料

の体裁としては、施策の事例紹介をしている部分を大きくページを割いて、区民がどういうことを行っていくのか、実際に区でどういうことが行われているのかを分かりやすく紹介した方がいいというご指摘をいただいた。

○大村委員 前回の審議会のパワポは、区内の事例が多く、インパクトがあった。1 ページでコラム的にまとめるなど、プロモーションではないが、足立区としての魅力を発信した方がいい。

○森田委員 防災に関して、耐震と防火の話が多いが、水害も書いたほうがいいのではないか。北千住のところは荒川がどうなのか。

○大村委員 水害の履歴はあるか。江戸川区は昔水害があったので、スーパー堤防をつくった。

○森田委員 シミュレーションで、北千住や江北は水害が起こると出ている。

○住宅課長 鬼怒川が決壊した時も、中川の方が水嵩が危ない状況になり、堤の改修もやっている。

○遠藤委員 たまたま大災害がなかっただけで、いつ起こるか分からない。

○明石委員 荒川決壊のときの被害区域には入っていないのか。

○建築室長 入っている。

○大村委員 0m 地帯はないのか。

○建築室長 ある。10 年前の台風で床下浸水はあったが、最近は下水が整備されているので被害が少ない。ただゲリラ豪雨では、あちこちで被害が出ている。

○明石委員 水害を入れるのはいいが、区としてやるべきことはあるか。

○遠藤委員 一方で、防災計画をつくっているのも、それをこちらでどう受けるか。水害に関しても同じである。

○明石委員 東京以外では、高床にしている地域もあり、貯留槽を誘導している地域もあるが、そういう地域であれば強調する必要があるが、特にそういう状況ではないのか。

○森田委員 地域との協力になると思う。高層住宅への避難協力をマスタープランに入れる。

○住宅課長 区民のご意見として、戸建てに住んでいる方が、水害が起きたときに高層マンションへ避難できるような仕組みがほしいという意見があった。

○明石委員 オートロックのマンションは入れない。協定を結んだりしないとできない。

○建築室長 ハザードマップの中で、千住は 5m まで水が来る。UR や都営住宅と区の協定は結んでいる。マンションと協定を結ぶよう議会から質問があり、危機管理室が動いたが、マンションの協力が得られない。できないのが現実だと思う。

○森田委員 耐震と防火に特化しすぎている気がする。水害についても書かれた方がいいのではないか。

○遠藤委員 次回までにどう書くか。協定で避難先を指定するということもあるが、もう一つ、危険なところに住んでいるという情報を開示する。

○明石委員 荒川決壊はあるが、内水被害はあるか。

○住宅計画係長 川ごとのハザードマップは作っている。

○明石委員 危ないのは川ではなく下水だと思う。

○遠藤委員 ハザードマップの防災計画でどう書き込むかという話なのでこちらではない。住宅地としてどうなのかという話はこちら側になる。

○明石委員 地下室を作るのが危険な地域がある。

○遠藤委員 地下室どころでなく、資産価値が二束三文と言ってあげないといけない。

○明石委員 場所によっては、地下室に居て亡くなっている方がいる。そういう場所なんだと言うことは、住宅施策と関係すると思う。

○遠藤委員 中古を流通させるための施策が後で出てくるが、その大前提として情報を開示しないといけない。住宅地としての情報を明らかにするという精神だけでもマスタープランとして盛り込んでいきたい。

○明石委員 そこに踏み込むと、災害危険区域の建

築基準法による規制など、こちらのテリトリーに関わってくる。そういう部分は足立区では特に必要ないと思えば、そこまではいい。

○遠藤委員 情報開示をなるべくしていくのはいいか。

○明石委員 情報開示して、それをどう受けるのか。何の情報が開示されていないかという、大きな災害については情報があるが、きめ細かい情報がない。浸水深もある程度開示されている。それから先に、不満があればマスタープランに書く。

○遠藤委員 さらにきめ細かい災害情報開示に努める、というのはどうか。

○大村委員 マスタープランでどう書くかについて、住宅地で安全安心な情報を求めたときに、アクセスする場所があって体制が整っているように努める、という形にした方がいいと思う。情報技術は日進月歩なので、今の時点でどこまでとは書けない。少なくとも区民が情報を得ようとするときに、ちゃんと情報を得られる仕組みが整っていることが望ましい。

○明石委員 その仕事は僕はやらない。住宅課では、住宅安全マップは作らない。

○大村委員 安全安心に関して問い合わせがあったときに、ポータルがあるなどすればいい。

○遠藤委員 問題を先送りして、必要があれば将来作ることを目指す。

○大村委員 安全安心といっても幅が広い。犯罪情報も地域別に公開されている。学校の評価もいろいろ情報が出ているが、それを行政が作って出すのはできない。知りたい人には開示することができればいいと思う。

○住宅計画係主任 建築審査課にいたときに、東京都が液状化マップを改定した。区民からかなり問い合わせがあったが、足立区はだいたい地盤が良くないので、危険度の高い黄色や赤色が多かった。どこに住めばいいかというと、区内で安全な緑色の場所がない。知らなかったという人も、それでも住むという人もいる。

○遠藤委員 センシティブな問題ではあるが、情報がなくて不安がって中古住宅が流通しない。何らかの形でアクセスができるよう努力していくということは盛り込む。避難マンションの協定についても努力する。

○森田委員 情報をネットに載せる場合、PDF で公開すると、検索に引っかからない。せめて目次の項目だけは、ネットの検索に引っかかるような掲示の仕方にしないと、もったいない。

○住宅計画係主任 区のホームページを作るときに、キーワードを盛り込めばそういうことはできる。

○森田委員 情報発信の方法について、ぜひ検討してほしい。

○大村委員 PDF でもリンクして検索できるものがある。

○遠藤委員 最後にキーワードを振り返って決める。

13 ページ以降、事例はもっと大きく載せる。5 年も経つと事例は色褪せてくるので、新しい情報が付け加わってもいい。

○大村委員 鶴岡市の都市計画マスタープランは加除式になっている。そういう考え方もある。事例を独立して 1 ページにしておけば、差し替え、付け替えが出来る。

○明石委員 アメリカはバインダー式で、マスタープランがよく変わる。

○遠藤委員 せっかくの事例を上手に活用できるよう工夫する。

○住宅課長 新たな協創が加わってきて差し込んでいく。

○大村委員 5 年ごとの見直しでなくても、随時そういうものを入れていくと、ユニークな試みで、足立区の売りにもなる。

○遠藤委員 加除式で、除はなくす。

○明石委員 9 ページ、基本目標 3 について、以前意見を出した。全体として、住宅や拠点については書いてあるが、住宅地としての生活利便性、安心感

についてはやや薄い。そこに何をしたらいいかというと、通学路を安全安心にして、歩いて暮らせる生活環境を整えていく。そこからさかのぼって、基本目標 3 の書き方が工夫できないか。足立区は平坦なので自転車の利用もでき広域に使える。30 年後を見据えると、スモールビーグルなどに転換していくかもしれない。生活道路のネットワークということになると、住生活マスタープランのテリトリーに入ってくる。歩いて暮らせる地域の中の生活道路をしっかり作っていくという視点を持って、それが通学路とも重なって、地域の見守りとも連結する。住宅課ではないかもしれないが、検討してほしい。

○住宅計画係主任 以前いただいた意見を読み上げる。「歩いて楽しい生活の道がつながって、日々わくわくする暮らしの舞台」ではどうか。歩行者・自転車を主役に、近所の散策や街歩きが楽しい生活街路・緑道のネットワークがつながって、公民の集客施設がアクセスしやすい便利で豊かに暮らせるまちを再創造する。

○ランドブレイン 基本目標というよりは、施策の方向性の部分で対応した。E-4「交通・交流でつなぐ拠点づくり」を追加している。

○明石委員 文章は揉んでいいが、基本目標 3 を差し替えてほしい。

○大村委員 基本目標を差し替えたかどうかという提案だと思う。

○遠藤委員 差し替えでなく付け加えればいいのか。

○明石委員 付け加えると長すぎるのではないか。

○遠藤委員 交通だけ独立して考えたり、住宅だけ独立して考えてやってきたのを、いい加減統合して考えましょう、ということだと思う。

○明石委員 生活環境づくりをちゃんと考えたかどうか。

○遠藤委員 「交通・交流でつなぐ拠点づくり」も分からないではないが、これだけでは足りない。修文を事務局にお願いする。

○森田委員 歩行者はいいが、自転車を入れるのはどうなのか。その文言までは入れない方がいいのではないか。

○大村委員 自転車は、独立した安全ネットワークが整備されていないので、結構危ない部分がある。それを整備するのは都市マスの話になるので、歩行者の方がいいと思う。30 年先を見据えると、自転車はなくて、ひょっとしたら自動運転になっているかもしれない。自転車を主役にするのは重たい気がする。オランダのアムステルダムには、自転車専用道があるが、それを知らずに立ち止まると結構危ない。

○明石委員 自転車にこだわる考えはないが、歩道は自転車が走らないようになってきたが、裏通りの道にも、足立区は結構自転車の道がある。それが区の政策の中にあるのであれば、入れてもいいのではないか。

○遠藤委員 交通の部分を厚くする。自転車については交通の重点プロジェクトにも掲げている。

○遠藤委員 12 ページ以降の主な施策の例について、意見を伺いたい。

○明石委員 一つ一つの細かいところまでは十分な知識がないが、「まち」という部分で、歩いて暮らせる生活利便性の観点をずっと見つけられない。文言を入れ替える、追加するなど、見えるようにしてほしい。「くらし」の安全についても、住宅地の交通安全や防犯という政策が入ってくる。子供や老人が歩く道の安全や見守り環境があって、安心な道を整備する。自然災害だけでなく、そういうことも入ったほうがいい。

○大村委員 生活の利便性は大事だと思う。ドライバーの間では抜け道マップがあり、それが住宅地内を通っていて、被害が多いところもある。そういう意味での安全対策は大事だと思う。

○明石委員 例えば「交通・交流でつなぐ拠点づくり」の言葉を入れ替えれば、項目を増やさなくても

いい。

○大村委員 「拠点づくり」というのは、施策の例の部分と合っていないのではないか。生活道路を含めたネットワークや生活利便施設へのアクセスビリティの向上などが必要になる。

○遠藤委員 12 ページでは、施策の役割分担を、黒と青で色分けしている。

○住宅課長 施策の例については、区長からも指摘があり、ハードだけでなくソフト面についても、関係所管からも施策を拾い上げている。不足している部分は今後手厚くしていきたい。

○遠藤委員 施策は、官と民にきっちり分かれるものではないのではないか。

○住宅計画係長 区長からは、主に行政がやるべきもの、主に民間がやるべきものが分からないので、仕分けできるという話を受けて、色分けしている。

○遠藤委員 こちらでもそれを受けないといけない。例えば高経年マンション対策は、区は面倒を見ないということは。

○住宅計画係主任 区長からの指摘があり色分けしたが、協創の中で、それぞれの度合いが違うことはあっても、どちらかに分かれるものはないので、書き方がすごく悩ましい。

○遠藤委員 どちらかに色分けできるものではない。12 ページで表現するのは諦めて、13 ページ以降の主な施策の例について、それぞれ区がやること、区民がやることを書き込む。

○明石委員 15 ページ「多世代居住・交流実現」について、可能であれば、子供と高齢者が一緒にいるような場を作っていくことをしっかり書けないか。それは都営住宅をどう整備していくかにも関わっていくので、もう一つの視点として追加してはどうか。それから 18 ページは、「見守り」がなくなっていないか。地域が安心に見守るという観点が入ってくる必要があるのではないか。防災防犯対策の中にも入っているけれど、地域が見守るということをもう少ししっかり出したほうが、足立区のカラーが出る。

○大村委員 福祉施策との連携の中にも書かれているが、もう少しはっきり書いた方がいい。

○明石委員 18 ページを修正するか、もしくは追加する。

○大村委員 下町コミュニティとして、元々あったような地域の支え合いを、独立型の福祉施策に限定しないで幅広くやる。

○明石委員 23 ページの公共住宅について、一般書き方になっており、東京都にちゃんと気持ち伝わるか。公営住宅の建替えに合わせて、地域の拠点として使うことを、もう少ししっかり書いたほうがいい。

○遠藤委員 2) に記述を追加する。

○明石委員 東京都はこれをしてくれ、UR はこれをしてくれ、というのがはっきり入ったほうが、都としても受け入れやすい。

○遠藤委員 施策の例の中に、都、UR、公社との連携強化とある。

○明石委員 もっとビシッと書いたほうが区の意味が伝わる。公営住宅を地域の拠点として使わせて欲しいということを、地域連携とオブラートに包まずに言う。主張が弱いと思う。

○遠藤委員 東京都は、建て替えの時に1割は地元で落とすなどのルールはないか。

○住宅計画係長 協議の中で擦り合せている。どれだけ創出用地を出さないといけないという決まりはない。

○遠藤委員 今まで通りでいいのか。地域連携の意味合いを掘り下げていけないといけない。拠点として使うことも踏まえて考える。

○森田委員 マンション総合対策について、順番に根拠はあるか。ないのであれば1番目に建設及び管理条例の改正、2番目に維持管理適正化、3番目に高経年マンション対策、4番目に建て替え対策の方が、納まりがいいのではないか。

○遠藤委員 今の順番に並び替える。

○森田委員 施策の順番として、建て替えが前に来

るのは違和感がある。区がどう考えているかについて、受け手側に現場と違うと思われるのもったいない。見守りなどももっと前の方においたほうがいいのではないか。

○ランドブレイン 25 ページ以降、特に重点プロジェクトについて、ご意見をいただきたい。

○明石委員 重点プロジェクトは、歩いて暮らせる施策が、重点の一つとして入って欲しい。

○住宅課長 6 類型をベースに総括をして、重点プロジェクトを考えたいうえで、それを最終的に都市マスの5地域に当てはめていく。

○建築室長 25 ページの住生活モデルは、特定の世代に特化しすぎではないかという指摘があった。

○大村委員 例えば、DINKS を推奨しているように見える。イメージとして出すのはいいが、持ち家か賃貸かはあまり出さないほうがいいのではないか。一戸建てに住む、利便性の高い地域に住むなどであればいいが、分譲マンションを購入、とすると決まった生活パターンになってしまう。最近の若い人は持ち家にこだわらず、賃貸にする人もいる。表現を柔らかくした方がいいのではないか。

○遠藤委員 所有関係は消して中立的にする。その方が先進的ないろいろな住まい方が見えてくる気がする。今までは住宅すごろくが頭にあったが、特に地方の持ち家は売りに売れなくなっている。

○森田委員 22 ページに「マンションの総合対策」があるのであれば、戸建て住宅やアパート対策の項目も必要ではないか。ワンオーナーと分譲タイプの問題は違う方向で出てくると思う。ワンオーナー住宅の総合対策という項目が必要ではないか。

○遠藤委員 アパート問題が大項目としてこれまで浮上してこなかったが、相続対策でアパートを建設しているような問題か。

○森田委員 ワンオーナーの住宅の維持管理は、分譲に比べ将来に費やす準備金が少ないような感じがする。高経年になればなるほど借りる人も少なくな

る。分譲マンションであれば積立金があるが、ワンオーナーでは余力を持って管理することは少なく、管理不全や空き家が問題になってくる。マンションの他に、ワンオーナーの住宅の総合対策が必要ではないか。戸建て・アパートの対策を新設してほしい。

○遠藤委員 ストック対策の中に含まれるのではないかな。

○大村委員 既存住宅ストックの中で、流通促進の他に適正な維持管理が必要ではないかな。

○ランドブレイン 維持管理については、17 ページに安全の面で入れている。活用については 22 ページに記載している。

○遠藤委員 2 つにまたがるのであれば両方に書いてあったほうがいい。

○森田委員 管理不全になったあとの事後保全ではなく、予防保全のイメージで考えてほしい。壊れてから直すのではなく、壊れる前に戸建て、アパートをどうしていくか考える。

○遠藤委員 事務局で検討してほしい。重複しても構わない。

(当日配布資料 足立区 住宅施策のあり方・方向性について説明)

○遠藤委員 宿題として、区の考え方以外に意見があれば、事務局に提出する。

○明石委員 大事なことが書いてある。次回でもしっかり議論しないとイケない。

○遠藤委員 たたき台については、肉付けして次回議論する。

○建築室長 住宅白書の定期的な作成も盛り込んでいきたい。

以上。